京都大学新聞
学生団体・
京都大学新聞社
京都市左京区吉田
京都大学構内
(761)2054 庶務
(751)2111 (内線2571)
振替・京都3909
(1部30円 1年間1,000円)

コンパの御相談承ります
割烹 きよす
懐石料理・寿司・テンプラ
スキヤキ・ナベ料理一切
寺町通今出川上ル
TEL (231)1206
(231)2257
(231)1177
(231)5518

日だまりの仔犬たちよ

「犯罪者」解放センター

宮武 誠之

私たちの「京都大学新聞」を無心に読んでいる未決拘留中の宮武氏から、私たちに送り内容をはらむ書簡がとどいた。

――「獄によりわれようとする自分たちは『犯罪人』とはちがうのだ」という意識は時として獄内外をとわず諸君の革命性を阻害していませんか？

直接に批判をうけた私たちはもとよりのこと、この新聞の読者の多くがこの書簡の問いかける内容に胸を突かれるに違いない。諸君は「犯罪」とか「獄」の問題をなお遠いものとしているかぎり諸君の問題は日だ遠くでしかない。私たちは、自己批判をこめてこの書簡を紙面化し、同時に「犯罪」の上場と「犯罪者」解放への闘いに立ち上ることを決意したいと考える。

なお、宮武氏は昭和46年殺人容疑で逮捕され岡山刑務所に拘置され、裁判において無期懲役の判決を受け現在仁右中である。そして、昭和47年9月から岡山「犯罪者」解放センターの一員として「犯罪者」解放へ向け闘っている。（編集部）

京大新聞編集部の皆さんこんにちは。私はいま岡山刑務所にいる「犯罪者解放センター」の一員で暮らしています。

あなたのものについては、第号で拝読させていただいているのですが、あなたのものなのかの「犯罪者」の問題について少しばかり不満があります。なぜなら、「解放」という言葉は、「犯罪者」の闘いの意義が訴えられ「解放同盟」は差別撤廃のための組織である。その基本的闘争力は糾弾である。従ってこの糾弾権をめぐる裁判は、今後の運動の極めて重要である。現在、矢田・機のない川などの一連の差別・弾圧裁判を闘っているが、その裁判をなぜあのこの裁判であると、一連の差別弾圧裁判を結合させ闘うことが強調された。

続いて、当中央オルグとして徳島をオルグ中、不当逮捕された、この裁判の「被告」として闘っている駒井昭雄氏が、次のような決意表明を行なった。

「兄弟六名の不当逮捕に始まるこの裁判は、『同和会』の強い徳島で、部落解放運動の芽をつむために政治的に加えられた弾圧である。しかし、弾圧はかえって火に油を注ぐように兄弟の団結と闘いを強め、頑固な徳島県連を確立した。

第一審無罪判決の重要な点は、『音声』『指紋』をとりあげ、差別をなげた者を守る法はないのだから自らの生命を守るために、差別糾弾する」ことは正当だと認めていることである。

しかし、この判決は不充分で、無罪での事件から第一審の勝利（無罪判決）へ、第二審の闘いの意義が訴えられ「解放同盟は差別撤廃のための組織である。その基本的闘争力は糾弾である。従ってこの糾弾権をめぐる裁判は、今後の運動の極めて重要である。現在、矢田・機のない川などの一連の差別・弾圧裁判を闘っているが、その裁判をなぜあのこの裁判であると、一連の差別弾圧裁判を結合させ闘うことが強調された。

続いて、当中央オルグとして徳島をオルグ中、不当逮捕された、この裁判の「被告」として闘っている駒井昭雄氏が、次のような決意表明を行なった。

「兄弟六名の不当逮捕に始まるこの裁判は、『同和会』の強い徳島で、部落解放運動の芽をつむために政治的に加えられた弾圧である。しかし、弾圧はかえって火に油を注ぐように兄弟の団結と闘いを強め、頑固な徳島県連を確立した。

第一審無罪判決の重要な点は、『音声』『指紋』をとりあげ、差別をなげた者を守る法はないのだから自らの生命を守るために、差別糾弾する」ことは正当だと認めていることである。

しかし、この判決は不充分で、無罪での事件から第一審の勝利（無罪判決）へ、第二審の闘いの意義が訴えられ「解放同盟は差別撤廃のための組織である。その基本的闘争力は糾弾である。従ってこの糾弾権をめぐる裁判は、今後の運動の極めて重要である。現在、矢田・機のない川などの一連の差別・弾圧裁判を闘っているが、その裁判をなぜあのこの裁判であると、一連の差別弾圧裁判を結合させ闘うことが強調された。

続いて、当中央オルグとして徳島をオルグ中、不当逮捕された、この裁判の「被告」として闘っている駒井昭雄氏が、次のような決意表明を行なった。

「兄弟六名の不当逮捕に始まるこの裁判は、『同和会』の強い徳島で、部落解放運動の芽をつむために政治的に加えられた弾圧である。しかし、弾圧はかえって火に油を注ぐように兄弟の団結と闘いを強め、頑固な徳島県連を確立した。

第一審無罪判決の重要な点は、『音声』『指紋』をとりあげ、差別をなげた者を守る法はないのだから自らの生命を守るために、差別糾弾する」ことは正当だと認めていることである。

8・2 高松高裁に五百人が結集

徳島不当弾圧差別裁判控訴審

一連の差別弾圧裁判の結合へ

法廷内と呼応して高裁前で集会が貫徹された

徳島不当弾圧差別裁判第二審第一回公判は、八月二日、午後一時半から、香川県の高松高等裁判所で行なわれた。

高裁前には、正午すぎから部落解放同盟各府県連・京都・近畿・中四国一から五百人が続々と集まった。

大阪府連の長谷川氏の司会で十二時半から抗議集会が開かれた。

中央本部代表として西岡中執は「徳島での事件から第一審の勝利（無罪判決）へ、第二審の闘いの意義が訴えられ「解放同盟は差別撤廃のための組織である。その基本的闘争力は糾弾である。従ってこの糾弾権をめぐる裁判は、今後の運動の極めて重要である。現在、矢田・機のない川などの一連の差別・弾圧裁判を闘っているが、その裁判をなぜあのこの裁判であると、一連の差別弾圧裁判を結合させ闘うことが強調された。

続いて、当中央オルグとして徳島をオルグ中、不当逮捕された、この裁判の「被告」として闘っている駒井昭雄氏が、次のような決意表明を行なった。

「兄弟六名の不当逮捕に始まるこの裁判は、『同和会』の強い徳島で、部落解放運動の芽をつむために政治的に加えられた弾圧である。しかし、弾圧はかえって火に油を注ぐように兄弟の団結と闘いを強め、頑固な徳島県連を確立した。

第一審無罪判決の重要な点は、『音声』『指紋』をとりあげ、差別をなげた者を守る法はないのだから自らの生命を守るために、差別糾弾する」ことは正当だと認めていることである。

しかし、この判決は不充分で、無罪

救援運動は感性の回復だ

『国民救援会』を越えて

70年代の救援

座談会

◇出席者◇

玉川　洋次（文京救援会）

水戸　巌（救援連絡センター）

下原　智絵（人民救援会）

司会：編集部

「国民救援会を越える」救援運動は

司会　で、センターがつくられた当時から言われていた「国民救援会を越える」ということについてはどうですか。

玉川　うん、彼ら、今でもけっこう活動をやっていることはいますよ。

水戸　何やってんですか。

玉川　例えば教科書裁判なんか全面的にやっていたわけでしょう。

水戸　そうですね。

下原　差し入れもときどきやっているみたい。

水戸　いったいだれにやってるんですか。

下原　どうせはりとか激発違反なんかね。

玉川　これは彼らが逮捕される度、二の闘争なんだな。まー、それ以外に全然ないわけではないけど。

司会　去年だったかな。大阪で自動車の部品爆発でバタクられたのがいちばんで、その"犯人"が府学連の幹部ばかりで……。

玉川　そういうのとか、市会議員で生活保護を受けていたのが捕発されたとか、あと、エン罪事件なんかですが……。そこらを見ていくと救援運動の対象領域は非常に広いわけです。だから、ぼくらが刑法や三里塚を―刑法と三里塚にしぼるということについては、もう少し討論が必要じゃあなかったかと思っているんですけど……。

水戸　思いきってしぼった、ということはあるんですよ。

玉川　刑法は政治的な焦点であることは事実だし。

水戸　それに三里塚闘争のもつ意味というのは、その深度の大きさというようなことあるけど、やっぱりさっき言った地域闘争の高揚したところ、という意味がある。

単なる反公害闘争というだけではなく、新金線―別島道路とかのあらゆる問題の集約した闘いである。そしておそらくこれからも全国で起きる、そういった非というのは各地域でみんなもっているわけですよね。

ぼくが知っているのは風呂ですけど、瞬発力はそのくらい問題だって、現実に公害がおきていなくったって、そこへみんな集ってきて真剣に討論して、ある意味でその地域に従来あった地縁的な組織というのはその中で解体して、もっとほかの、ありとあらゆる問題が起こって来ているわけでしょう。

そういうことと反弾圧闘争との結合というのは、これは絶対必要ですよね。闘争の激化というのは必然なのだから。

ぼくはだから、今まで学生への差し入れとかに関っていた救援会の人たちが、自覚的にとり組んでいくべき課題として、もう一度考え、もう一回体制をとり直してもらうことが重要だと思う。

玉川　それからもうひとつね。ぼくは未組織の組合づくりとかいろんなことをやってきたんですが、大体成功する時はどういう所かと言えば、諸個人に至るまで具体的な任務があって、一人ひとりがみんな動くという所はきちっとやれるね。ところが二部の請負になる所は必ず民同化するなり、第二組合ができちゃってばらばらになっていく。大体基本的にそういう構造なんですよ。

一人ひとりが、どんなつまらんことでも、たとえばサークルの責任者やるなり、あるヤツは労金の責任者やるなりして、分業秩序じゃあ困るけど、一人ひとりがきちっと活動している所は相当ウルトラな闘争やっても崩れないんですよ。

これは救援会というような単位で見た場合も、そういう目に見える活動のスタイルが具体的にある場合、救援会自体が持続するし、逆に、各地域の救援会が各地域の救援会であって、センターがどうなろうと自分たちは自分たちでやっていく、ということはどうしようもないというのが領域規則でしょう。

「地域の救援だけ」ではなく…

だから、他の救援会がみんなふれて、文京と人救だけが残ったというような構造には決してならんと思うんですよ。つまり、その時にはセンターもつぶれているから。

そういう意味で、地域の運動だけやっていりゃあいいんだという方共産主義みたいなもんだと思う。

今、そういうことも含めて、ぼくも全国オルグを手チッとやっていくことが必要なんじゃあないかと考えているんですが……。

司会　その場合、もっていくものは刑法と三里塚ですか。

水戸、玉川　そうです。それが軸です。

水戸　それも、逆に地域のいろんな問題というものをぼくたちが受けてもう一度、全国化するということですね。

玉川　例えば、福井では、移動の時、体意思体である町内会長の印かんが必要なんですよ。

水戸　まこしとも福井か。

例の公安条例が、全国にさきがけてできたところですよね。

玉川　福井の公安条例のもとになった福井大地震の時、一番早くかけつけたのは国民救援会ですよ。また金沢だけど。

司会　例の「三・八」の放火事件で、自警団が逮捕されたのも福井ですね。

水戸　そういう問題は、そこのメンバーたちが自分の所だけでもやらなければならないという切実さがあるでしょう。

しかしそれだけではないと思います。だから、センターとの結合が何故生まれないか、というって、そこのところは少し慎重に考えなければならないでしょう。例えば、センターのニュースは全然読まなくてもその人たちは間に合う、とかあるいは、センターのニュースに自分たちのやっていることを反映させようという気がおきないというのはどういうことでしょうかね。

玉川　その辺は、むしろセンターが、度行って話をしないと……。少くとも8月末の段階では、センターと密接な関係があったと思いますよ。

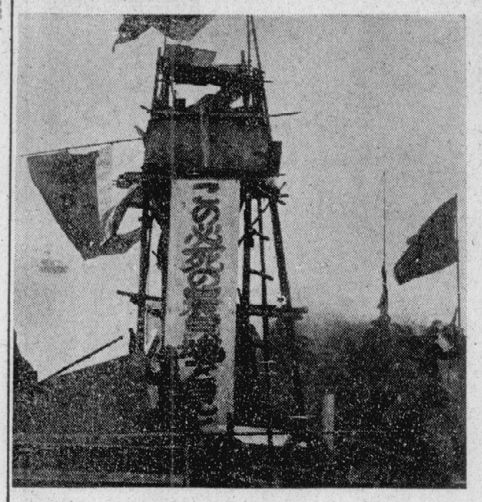
もうひとつ、あそこへの待遇というのはよく死体が流れてくるところでしょう。

玉川　墨田区というのはね。

玉川　京都から新潟まで国道8号線をずっと行ったことがあったんだけど、そのときもやたら目立ったな。

水戸　立看板がやたら目につくんでしょう。「帰人国者に警戒して下さい」って下さい。見かけこうすべ、通報してください」ってヤツね。

そのことは、「反センターのニュース」書いたことがあります。



座談会も最終回を迎えた。これまで前三回の話の中で、色んな問題が提出された。たとえばS対策であり、今日的な弾圧の相とこれへの反撃の基本的方向であり、運動の広さのもつ積極的な意義であった。

前回でも提出された新しい救援会の内容というのは、各領域の闘いと結びつき、波及しあいながら、ますます広がっていくにちがいない。

そして、こういう時代であればこそわれわれは、玉川さんの「救援運動とは感性の回復だ」ということばを、しっかりつかみとっていかねばならない、と考える。そこのことばは決して、救援運動に限られたものではないだろうから。

（編集部）

〃学生救援会〃の脱皮へ

地域・労働運動との結合

水戸　やっぱり、学生救援会なんだな。

玉川　だから郷山さんなんかが――彼女は熱心に差し入れやってらっしゃるからこと言えると思うんですが――「差し入れ救援やめようじゃないか」って言ってましたね。

水戸　激烈的にそう言っているわけですよね。その意味はわかりますよ。

でも、それ（差し入れ）は基本的なことで、軸でもあるわけで、やっぱり捨てしちゃあいけないことですよね。

その上で、そういう表現をとるべきいろいろ広い視野をもたなくちゃいけない、ということですよね。

ま、そういう方向で努力いたします。（笑）だから協力して下さい。

「百回指定」の粉砕はリブの力

水戸　救援というのは、学生さんには魅力がないらしいですね。

司会　そうですね。どうも「第一線ではない」という意識が強いし、派手じゃあないですからね。これは「救援」という語感じたいにも言えることですが……。

水戸　例えば？

玉川　労働運動のことだとかいうわけですよね。だけど実体が伴っていない。

玉川　しかし、実感には労働運動でバクられたヤツがセンターに弁護を依頼するというのは少しずつ増えていますね。文京でもそういう例はあったし……。

水戸　観念的には主張しているわけですよね。だけど実体が伴っていない。

玉川　しかし、実感には労働運動でバクられたヤツがセンターに弁護を依頼するというのは少しずつ増えていますね。文京でもそういう例はあったし……。

水戸　やっぱり、学生救援会なんだな。

玉川　だから郷山さんなんかが――彼女は熱心に差し入れやってらっしゃるからこと言えると思うんですが――「差し入れ救援やめようじゃないか」って言ってましたね。

水戸　激烈的にそう言っているわけですよね。その意味はわかりますよ。

でも、それ（差し入れ）は基本的なことで、軸でもあるわけで、やっぱり捨てしちゃあいけないことですよね。

その上で、そういう表現をとるべきいろいろ広い視野をもたなくちゃいけない、ということですよね。

ま、そういう方向で努力いたします。（笑）だから協力して下さい。

「百回指定」の粉砕はリブの力

水戸　救援というのは、学生さんには魅力がないらしいですね。

司会　そうですね。どうも「第一線ではない」という意識が強いし、派手じゃあないですからね。これは「救援」という語感じたいにも言えることですが……。

水戸　例えば？

玉川　労働運動のことだとかいう